

〇〇〇と△△△の組み合わせによる、しなやかな予防的理学療法体制を構築

1. 新型コロナウイルス感染症による影響

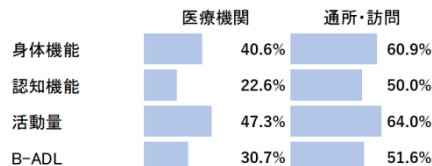
新型コロナウイルスの感染拡大により、政府の緊急事態宣言に基づき、都道府県による自粛要請が発令されるなど、未曾有の事態となった。予防的理学療法では対象がハイリスク者であること、医学的緊急性が低い特異性から、**対面でのリハの中止・自粛**が生じやすかった、患者、利用者、住民に**心身機能の低下**が生じ、その結果**基本的なADLの低下が見られた**。

■ 患者(利用者)が大幅に減少した施設の割合



(左図) (公社)日本理学療法士協会、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う理学療法臨床現場への影響調査「臨床業務」結果より作成

■ 患者(利用者)に関する負の影響

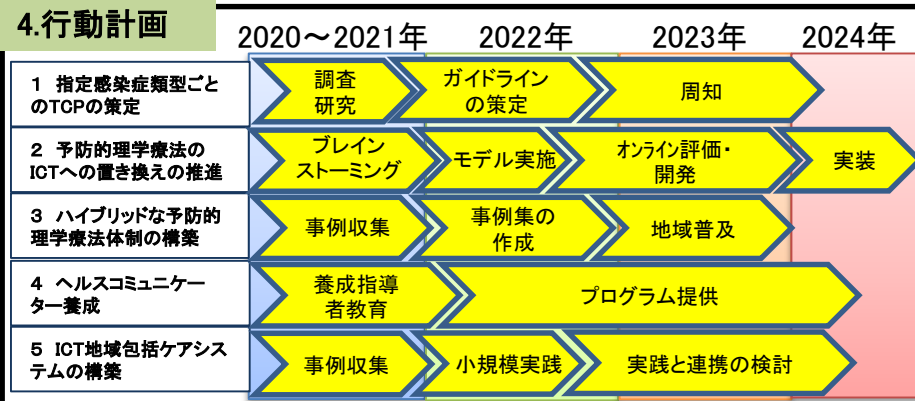


(右図) 新型コロナ感染対策本部 予防領域委員会 医療機関等への影響度調査(R2.9)より作成

2. 浮き彫りになった課題

- | | | |
|------------|---|--|
| 医療機関・介護事業所 | ➡ | ① 新興感染症に対する予防体制が構築できずリハサービスが提供できなかった。 |
| 医療機関・介護事業所 | ➡ | ② 理学療法士の対面型予防リハという固定概念から非対面でのリハサービスが十分でなかった。 |
| 介護事業所・地域 | ➡ | ③ 提供者・利用者双方のICTリテラシーが障壁となっており、リハサービスが滞った。 |
| 地域 | ➡ | ④ 住民主体により中止の判断や感染対策に偏りがあった |
| 介護事業所 | ➡ | ⑤ サービス提供者会議は対面実施するという固定概念があった |

4. 行動計画



3. 新たな5つの取り組み

1 指定感染症ごとのTCP(Therapy Continuing Plan)策定

新たな感染症にも適応するため、感染症類型に合わせた感染防護計画を策定して持続的に予防的理学療法が提供できる体制を整える。

2 ICT活用推進

既存概念の打破から始め、オンライン指導や電話指導などICTを活用した予防的理学療法の提供体制を構築する。

3 ハイブリッド予防的理学療法

平時より、対面と非対面、外来と訪問などハイブリッドな予防的理学療法サービス提供体制を整える。

4 ヘルスコミュニケーター養成

感染症という専門知識が必要な分野であっても、専門職主導にならないように、Shared Decision Makingをベースにしたヘルスコミュニケーション技術を洗練する。

5 ICT地域包括ケアシステム構築

サービス提供者会議や地域ケア会議などが日常的に非対面でも行えるように理学療法士のICTリテラシーを活かし、地域のシステム構築を支える。

5. これからの理学療法士の活躍の場

新型コロナウイルス感染症を教訓として、未知なる感染症のパンデミックでも、患者・利用者への予防的理学療法の提供が滞ることが無いように、理学療法士は外来と訪問、対面と非対面など、〇〇〇と△△△の組み合わせによる**しなやかな予防的理学療法体制**を構築する。これを実現するための**5つの新たな取り組み**を提案した。この取り組みの実現により、理学療法士は地域包括ケアシステムの一つの中核としての役割を果たし、地域においてどのような状況でも、患者・利用者・地域住民が医療・介護・行政、元気・フレイル・要介護などで分断されることなく予防的理学療法の恩恵を享受できる体制を作る。